



九州ブロックのHIV医療体制の整備に関する研究

研究分担者 南 留美

独立行政法人国立病院機構九州医療センター

AIDS/HIV 総合治療センター 部長

研究要旨

新規のHIV感染者数は九州全体としては減少傾向にあるが、いきなりAIDS率は2023年から2025年にかけて上昇しており、依然全国に比べ高い水準で経過している。保健所によるHIV検査数はコロナ禍前のレベルには戻っていないが、予約のオンライン化、検査の民間委託、郵送検査の導入などの対策を行う地域が増えてきている。

長期療養を担う医療体制の構築および地域医療連携に関しては、各県とも中核病院および行政を中心に、診療ネットワーク会議、曝露事故対策、歯科診療ネットワーク構築、受け入れ施設への研修等に取り組んでいる。薬害被害者が地域で安心して診療を受けるためにはHIV感染症に加え血友病診療についての啓発も重要である。

HIV診療の均てん化のために九州ブロックエイズ拠点病院研修会を行った。また、各県の中核拠点病院および行政担当者を対象に職種ごとに集まってエイズ診療ネットワーク会議を行い、情報共有および地域ごとの課題について検討をおこなった。

HIV/AIDSを取り巻く医療体制の問題は、地域社会全体の課題として、行政・保健所と拠点病院や関係機関が連携・協働して取り組んでいく必要がある。

A. 研究目的

九州地方においても全国における状況と同様、新規のHIV感染者数は減少傾向にあるが、エイズ発症例は減少しておらず、いきなりエイズ率が高い状況が続いている。HIV感染予防および早期発見のためにHIVスクリーニング検査やPrEP（見守りを含む）を担ってくれる医療機関の確保が必要となる。また長期療養及び高齢化に伴い合併症をもつ患者の割合が増加している。そのためHIV診療に携わる医療者の確保は、重要な課題である。HIV感染症が慢性疾患となった現在、一般専門医療機関や介護などの施設も含めたPLWHに対する慢性期医療体制の構築、地域における医療連携の必要性が一層強まっている。

本研究は九州地方におけるHIV診療の問題点の把握および課題解決に向けたHIV診療体制の構築・医療向上を目的とする。

B. 研究方法

1. HIV診療に従事する人員の確保・専門知識の普及

HIV感染症における最新情報や知見の共有のための基礎研修を拠点病院のHIV診療担当者を中心にオンラインで行った。2024年以降、基礎研修を修了した看護師対象に応用コースの研修を実地にて行った。また歯科医師研修を実地にて行った。

ブロック内のHIV診療技術の向上および最新情報の共有のため、各拠点病院のHIV診療従事者および各県の行政担当者を対象に九州ブロックエイズ拠点病院研修会を行った。また、各県の中核拠点病院および行政担当者を対象に職種ごとに集まり、エイズ診療ネットワーク会議を行った。

2. 地域医療連携

- (1) 地域連携のための研修：受け入れ施設の職員を対象とした出前研修を行った。
- (2) 病院・施設訪問：長期療養に伴う二次病院、療養施設、介護施設などにおける患者受け入れ促

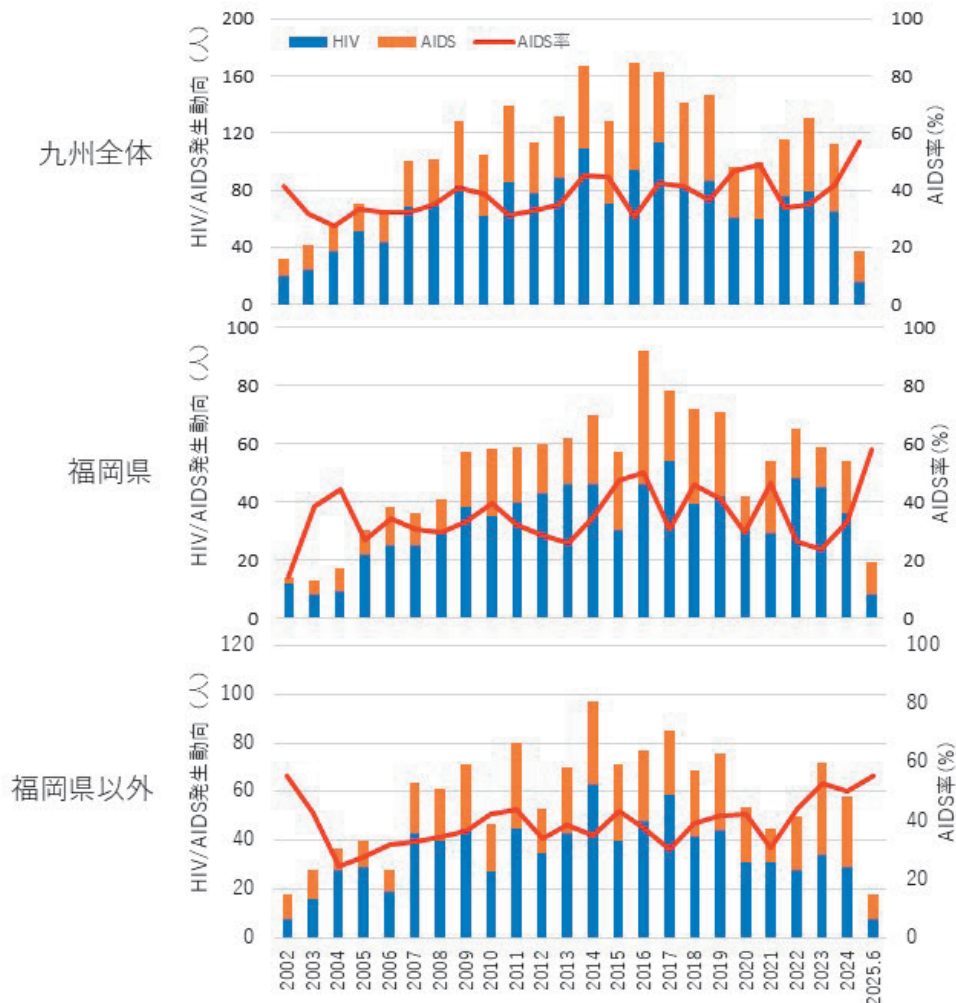


図1 新規HIV/AIDS発生動向とエイズ率の変化

進などを目的として、各施設の訪問および研修を行なった。

- (3) 九州内各県におけるPLWHの療養支援体制の状況について確認した。
- (4) 曝露事故時の予防薬に対する九州内各県の取り組みの進捗状況を確認した。
- (5) 九州ブロック内の拠点病院を訪問し、各々の施設における課題についての情報共有や必要に応じて臨床カンファレンスを行った。

3. 薬害被害者への対応

- (1) 精密検査入院：ブロック内の薬害被害者に対し九州医療センターで精密検査入院を行い、悪性腫瘍のスクリーニング、血友病性関節症やC型肝炎、生活習慣病などの評価を行った。
- (2) リハビリ検診（個別、集団）：関節、運動機能の評価および生活面での課題について検討した。多くの被害者が参加できるように九州内各

県で行っている。

- (3) 被害者救済（長期療養）支援チーム：より良い医療連携、療養環境の整備のための活動（各地域への訪問や地域カンファレンスの開催等）を行った。

<倫理面への配慮>

本研究においては患者人権とくにプライバシーの保護は重要であり、特に配慮を行なった。

C. 研究結果

1. HIV診療に従事する人員の確保・専門知識の普及

今年度はハイブリッド形式を中心に以下の研修会・シンポジウムを開催した。

またHIV診断啓発のための資材「一般診療においてHIV感染症を疑うコツ」の改訂を行った。

- (1) 第42-44回九州ブロックエイズ拠点病院研修会（ハイブリッド）

■参加者：138/133/126名

- ・ HIV感染症の最新情報、高齢化するHIV陽性者が老後を安心して過ごすために
- ・ みんなで支えるHIV診療 ～地域連携と合併症管理～ /事例検討
- ・ 外国人HIV陽性者が医療に繋がるまで /事例検討

(2) 九州ブロックエイズ診療ネットワーク会議（ハイブリッド）

■出席者：九州ブロック内中核拠点病院医師・看護師・CO・MSW・薬剤師・行政関係者 70/80/77名

(3) HIVネットワーク 第49～51回シンポジウム（ハイブリッド）

■参加者：55/48/44名

- ・ 九州福岡市の現状、予防啓発活動について ～行政、NGO、現場それぞれの立場から～
- ・ HIVとSTD
- ・ HIVと依存症

(4) HIV/AIDS基礎研修（オンデマンド/オンライン/対面）

- ・ 看護師コース（参加者 R5/R6/R7：37/13/13名）
- ・ 薬剤師コース（参加者 R5/R6/R7：17/14/7名）
- ・ カウンセラーコース（参加者 R5/R6/R7：8/6/5名）
- ・ MSWコース（参加者 R5/R6/R7：7/14/9名）
- ・ 医師コース（参加者 R5/R6/R7：7/4/7名）
- ・ 歯科/歯科衛生士コース（参加者 R5/R6/R7：8/8/1名）
- ・ 栄養士コース（参加者 R5/R6/R7：6/3/2名）

(5) HIV/AIDS応用研修（オンデマンド/オンライン/対面）

- ・ 看護師コース（参加者 R5/R6/R7：3/1/4名）

(6) 九州HIV看護・ソーシャルワーク研修会（ハイブリッド）

- ・ 「HIV感染症診療の出会いとこれから」「LGBTQと医療 ～多様なSOGIEに関して医療従事者が知っておくべき知識～」+事例発表（鹿児島）

- ・ HIV感染症の最新情報、事例検討（熊本）
- ・ HIV感染症の最新情報、事例検討5例（佐賀）

(7) 第20～22回九州ブロックHIVカウンセラー連絡会議/R5～7年度九州ブロックHIVカウンセリング研修会

- ・ 事例検討

2. 地域医療連携

(1) 地域連携のための研修：

受け入れ施設の職員を対象とした出前研修をオンラインおよび対面で実施。対面で行う施設が増えて

きている。実施施設数はR5年8施設（対面3）、R6年10施設（対面9）、R7年17施設（対面9）であった。

(2) 病院・施設訪問

R5～7年の3年間で九州医療センターとの地域連携協力病院9か所、福岡県医師会、看護協会、薬剤師会、STIクリニック6か所および福岡市精神保健福祉センターを医師やMSW、心理士、当事者支援団体等で訪問した。HIV診療の最新情報や県内の診療状況についての情報提供を行い、今後の連携を依頼した。患者受け入れに關しての反応は一部を除いて概ね良好であった。訪問したSTIクリニックのうち1か所はPrEP（処方および見守り）を行っていた。また、DOXY PEPも行っており近年、CSWの利用者が増えているとのことであった。福岡市精神保健福祉センターでは、依存症患者の受け入れ組織・施設と連携をとることが出来た。

(3) 九州内各県におけるPLWHの療養支援体制の状況

九州内各8県および政令指定都市3市、計11か所の行政機関にHIV陽性者の長期療養・在宅療養支援体制の整備に関する取り組みについてのアンケートを行った。11行政機関中5機関で施設向けのHIV研修を行っていなかった。行っていない理由として、「予算」「要望」「時間」の不足が挙げられていた。HIV陽性者の高齢化に伴う支援体制の構築に関しては全行政機関において課題を認識していた。具体的には、「通院困難」「受け入れ先の不足」「HIVに対する関心の低さ」が挙げられていた。また課題に対し、拠点病院やNPOと連携して対応している機関は11機関中6機関であった。具体的には、研修、相談員の派遣、個別事例への対応（拠点病院と施設の連携仲介）などであった。

(4) 曝露事故時の対応

R5年は県主体で県内の病院に予防薬を配置し、マニュアルを整備している県は沖縄、鹿児島、熊本のみであったが、各県とも抗HIV薬整備事業にとりくみ、R7年時は、佐賀県、長崎県以外は曝露時の対応について、各県のHPに掲載されていた。マニュアルは佐賀県以外は策定されていた。いずれも3年間で行政の取り組みが進んだ。

(5) 拠点病院訪問

R5年 宮崎県、R6年 大分県、R7年 鹿児島県の拠点病院を訪問し「臨床カンファレンス」を行い、各施設の診療状況、課題について情報を共有した。拠点病院の偏在化（鹿児島、宮崎）、拠点病院返上（鹿児島）、後継者問題（鹿児島、宮崎）、受け入れ困難

事例の存在（大分）が課題として挙げられた。

3. 薬害被害者への対応

(1) 精密検査入院パス

九州ブロック内に居住する薬害被害者を対象に、短期間九州医療センターに入院して全身の精査を行う精密検査入院パスを行っている。利用者はR5年15名、R6年14名、R7年12名であった。悪性腫瘍のスクリーニングのみでなく、必要に応じCVDの評価、整形外科受診、栄養指導、リハビリ等の生活指導を行った。3年間で41名のうち、大腸ポリープ14例（うち1例adenocarcinoma）、低悪性度唾液腺線種1例、血管病変6例（脳動脈瘤2例、脾動脈瘤1例、腹部大動脈瘤1例、上腸間膜動脈解離1例、冠動脈石灰化1例）など、治療介入が必要な所見が認められた。

(2) リハビリ対応

九州医療センターでは薬害被害者5名を対象に外来にてリハビリを施行している。個別リハビリ検診は九州医療センターで施行し、参加者は令和5年6名、令和6年9名、令和7年8名。集団リハビリ検診は令和5年は11名（熊本大学病院）、令和6年は8名（琉球大学病院）、令和7年8名（県立宮崎病院）が参加された。関節や運動機能の評価とともに被害者の日常生活の確認や助言を行った。また、被害者と医療者、院内医療者間の連携、医療機関間の連携強化にもつながった。

(3) 被害者救済（長期療養）支援チーム

被害者の自宅を訪問して担当者会議を行った。また、対応困難な被害者に対しては、救済支援チームスタッフ、拠点病院スタッフ、地域の医療機関、就労支援施設、行政等が集まり対応を検討する「地域臨床カンファレンス」を行った。

D. 考察

九州全体としては、新規のHIV/AIDS報告数は2023年をピークに減少しているがエイズ率は上昇している。福岡県では感染早期の患者数を含め新規HIV感染者総数が減少した。一方、AIDS患者数は減少しておらず、結果いきなりエイズ率の上昇につながった。福岡県以外の地域でもHIV/AIDS総数の報告は減少しているが、AIDS率は50%前後と高値のまま持続している（図1）。福岡県では昨年までは新規HIV感染者のうち感染早期の患者が一定数いたが、今年は感染早期の患者数が減少した。一方、AIDS患者数は減少しておらず、結果いきなり

エイズ率の上昇につながった。単年度での検討のため正確な評価はできないが、郵送検査を含めた検査の普及、PrEP利用者の増加が確実にできれば、新規感染者が真の意味で減少していくことが期待できる。九州ブロック内の各県でも民間クリニックへの検査委託、保健所での郵送検査導入が試みられている（福岡、佐賀、大分、熊本、沖縄）。今後の検査数の増加に期待したい。PrEPに関しては、九州内で対面にて処方する施設がまだ少ない（福岡3、沖縄6）。PrEPに関する情報発信を行い、協力可能な医療機関を増やしていく必要がある。

HIV診療に従事する人員の確保・専門知識の普及のため、毎年九州医療センターにてHIV/AIDS基礎研修を行っている。コロナ禍以降、オンデマンド配信による研修に変更していたが、受講者のモチベーション向上のために次年度より研修方法をリニューアルする予定である。また、多職種参加の研修にて事例検討を行っているが、身体面の課題よりも精神面、社会面での課題を抱えた事例検討が多い。特に差別・偏見に起因する問題は社会全体の課題であり、短期間では解決の糸口が見つからない場合が多い。

地域医療連携に関しては、多職種による医療・介護施設への研修や訪問を行った。HIVに対する知識は習得出来てもHIVに対する偏見と不安が受け入れに対する障壁となっていた。実地研修や実体験、経験者からの意見が不安や偏見を軽減するのに貢献すると考えられる。また、長期療養体制の構築には行政との連携が重要である。拠点病院と連携が取れている県・政令指定都市の行政機関は約半数であった。行政と病院が連携をとり地域で生活するPLWHのニーズにあわせて取り組んでいく必要がある。曝露事故対応に関しては2023～2025年の間に各県において行政が主体となりマニュアル作成・ホームページへの掲載が進んだ。

薬害被害者への対応に関しては、九州ブロック内の被害者を対象に「精密検査入院」「リハビリ検診会」を行なった。ともに3年間で40人前後の薬害被害者の方が参加された。「精密検査入院」では、「悪性腫瘍」「前がん病変」「CVD」の評価、「リハビリ検診」では「関節評価」や「リハビリ指導」が主目的であるが、被害者と医療者のつながりのなかで、日常生活上の課題の顕在化、医療機関内の連携、医療機関同士の連携の強化につながり、今後の薬害被害者支援の円滑化に役立ったと思われる。なお、薬害被害者に関しては、HIVのみではなく、血友病に関

しても受け入れ施設拡充の施策が必要と考え、HIV研修に加え血友病に関する研修も開始している。

拠点病院と地域の医療施設、行政が協働し、薬害被害者を含むPLWHが安心して療養できる地域包括ケアシステムの早期実現が望まれる。

E. 結論

HIV陽性者の高齢化に伴う長期療養HIV陽性者の増加は、次世代を担うHIV診療従事者のみならず、地域社会全体の問題として、行政・保健所と拠点病院や関係機関が連携・協働して取り組んでいく必要がある。特に多くの合併症を抱えた薬害被害者に対しては個別に評価し個々に応じて対応していく必要がある。

PLWHおよび社会双方のニーズに合った研修を行い、知識のバリアだけでなく心理的なバリアを取り除いていくことが重要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Goto Y, Ahn YM, Toyoda M, Hamana H, Jin Y, Aritsu Y, Nakama T, Tajima Y, Maddumage JC, Li H, Kitamatsu M, Kishi H, Yonekawa A, Jayasinghe D, Shimono N, Nagasaki Y, Minami R, Taya T, Sekiya N, Tomita Y, Chatzileontiadou DSM, Nakata H, Nakagawa S, Sakagami T, Ueno T, Gras S, Motozono C. Molecular basis of potent antiviral HLA-C-restricted CD8⁺ T cell response to an immunodominant SARS-CoV-2 nucleocapsid epitope. *Nat Commun.* 2025 Aug 28;16 (1) : 8062. doi : 10.1038/s41467-025-63288-3.
- 2) Adachi E, Minami R, Shirano M, Nakamura H, Fukushima K, Imahashi M, Sekiya R, Yoshino Y, Taniguchi T; Evaluation of cabotegravir plus rilpivirine in routine clinical settings in Japan : A multicentre study of efficacy, safety and biomarker dynamics J - HIV RWD Collaborative Database Team. *HIV Med.* 2025 Nov;26 (11) : 1673-1683. doi : 10.1111/hiv.70096.
- 3) Ndubi M, Toyoda M, Ngare I, Motozono C, Minami R, Ueno T, SARS-CoV-2 Spike-specific T cell responses following COVID-19 vaccination in Japanese people living with HIV. *Jpn J Infect Dis.* 2025 Jun 30. doi : 10.7883/yoken.JJID.2025.086.
- 4) Yokomaku Y, Teruya K, Watanabe D, Endo T, Minami R, Taguchi N, Cassidy T, Marongiu A, Thorpe D, Shirasaka T, Oka S. Bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in treatment-naïve and treatment-experienced people with HIV : 12-month virologic effectiveness and safety outcomes in the BICSTaR Japan cohort. *PLoS One.* 2025 Jan 8;20 (1) : e0313338. doi : 10.1371/journal.pone.0313338.
- 5) Takeo Kuwata, Yu Kaku, Shashwata Biswas, Kaho Matsumoto, Mikiko Shimizu, Yoko Kawanami, Ryuta Uraki, Kyo Okazaki, Rumi Minami, Yoji Nagasaki, Mami Nagashima, Isao Yoshida, Kenji Sadamasu, Kazuhisa Yoshimura, Mutsumi Ito, Maki Kiso, Seiya Yamayoshi, Masaki Imai, Terumasa Ikeda, Kei Sato, Mako Toyoda, Takamasa Ueno, Takako Inoue, Yasuhito Tanaka, Kanako Tarakado Kimura, Takao Hashiguchi, Yukihiro Sugita, Takeshi Noda, Hiroshi Morioka, Yoshihiro Kawaoka, Shuzo Matsushita, The Genotype to Phenotype Japan (G2P-Japan) Consortium Induction of IGHV3-53 public antibodies with broadly neutralising activity against SARS-CoV-2 including Omicron subvariants in a Delta breakthrough infection case. *eBioMedicine.* 2024 Dec; 110 : 105439. Published online 2024 Nov 1. doi : 10.1016/j.ebiom.2024.10543
- 6) Michiko Koga, Akari Fukuda, Masanori Nojima, Aya Ishizaka, Toshihiro Itoh, Susumu Eguchi, Tomoyuki Endo, Akiko Kakinuma, Ei Kinai, Tomomi Goto, Shunji Takahashi, Hiroki Takeda, Takahiro Tanaka, Katsuji Teruya, Jugo Hanai, Teruhisa Fujii, Junko Fujitani, Takashi Hosaka, Eiji Mita, Rumi Minami, Hiroshi Moro, Yoshiyuki Yokomaku, Dai Watanabe, Tamayo Watanabe, Hiroshi Yotsuyanagi. Non-acquired immunodeficiency syndrome defining malignancies in people living with haemophilia and human

- immunodeficiency virus after direct-acting antiviral era. *Glob Health Med.* 2024 Oct 31; 6 (5) : 316–323. Published online 2024 Oct 31. doi : 10.35772/ghm.2024.01036
- 7) Iaac Ngare, Toong Seng Tan, Mako Toyoda, Takeo Kuwata, Soichiro Takahama, Eriko Nakashima, Naoya Yamasaki, Chihiro Motozono, Teruhisa Fujii, Rumi Minami, Godfrey Barabona, Takamasa Ueno. Factors Associated with Neutralizing Antibody Responses following 2-Dose and 3rd Booster Monovalent COVID-19 Vaccination in Japanese People Living with HIV. *Viruses.* 2024 Apr; 16 (4) : 555. Published online 2024 Apr 2. doi : 10.3390/v1604055
- 8) Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, Imahashi M, Minami R, Koga M, Samukawa S, Watanabe D, Fujii T, Tateyama M, Nakamura H, Matsushita S, Yoshino Y, Endo T, Horiba M, Taniguchi T, Moro H, Igari H, Yoshida S, Teshima T, Nakajima H, Nishizawa M, Yokomaku Y, Iwatani Y, Hachiya A, Kato S, Hasegawa N, Yoshimura K, Sugiura W, Kikuchi T. Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism : a multicentre retrospective study *J Antimicrob Chemother.* 2023 Dec 1;78 (12) : 2859-2868. doi : 10.1093/jac/dkad319.PMID : 37856677
- 9) Mako Toyoda, Toong Seng Tan, Chihiro Motozono, Godfrey Barabona, Akiko Yonekawa, Nobuyuki Shimono, Rumi Minami, Yoji Nagasaki, Yusuke Miyashita, Hiroyuki Oshiumi, Kimitoshi Nakamura, Shuzo Matsushita, Takeo Kuwata, Takamasa Ueno, Evaluation of Neutralizing Activity against Omicron Subvariants in BA.5 Breakthrough Infection and Three-Dose Vaccination Using a Novel Chemiluminescence-Based, Virus-Mediated Cytopathic Assay, *Microbiol Spectr.* 2023 Jul-Aug; 11 (4) : e00660-23.
- 10) Machiko Otani, Teiichiro Shiino, Atsuko Hachiya, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Masako Nishizawa, Takanori Teshima, Shigeru Yoshida, Toshihiro Ito, Tsunefusa Hayashida, Michiko Koga, Mami Nagashima, Kenji Sadamasu, Makiko Kondo, Shingo Kato, Shunsuke Uno, Toshibumi Taniguchi, Hidetoshi Igari, Sei Samukawa, Hideaki Nakajima, Yusuke Yoshino, Masahide Horiba, Hiroshi Moro, Tamayo Watanabe, Mayumi Imahashi, Yoshiyuki Yokomaku, Haruyo Mori, Teruhisa Fujii, Kiyonori Takada, Asako Nakamura, Hideta Nakamura, Masao Tateyama, Shuzo Matsushita, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, Tetsuro Matano, Tadashi Kikuchi, Japanese Drug Resistance HIV - 1 Surveillance Network Association of demographics, HCV co - infection, HIV - 1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis : a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV - 1 Surveillance Network, *J Int AIDS Soc.* 2023 May; 26 (5) : e26086.
- 和文
- 1) 椎野禎一郎、潟永博之、今橋真弓、渡邊大、南留美、蜂谷敦子、西澤雅子、林田庸総、吉田繁、豊嶋崇徳、伊藤俊広、古賀道子、貞升健、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂寛、渡邊珠代、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村 麻子、仲村秀太、松下修三、吉村和久、杉浦互、菊地正、薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク：国内 HIV-1 伝播クラスタの 2022 年の動向：薬剤耐性 HIV 調査ネットワークによる SPHNCS 年報 Trends in HIV-1 transmission clusters in 2022 : Annual report of SPHNCS by the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. *日本エイズ学会誌* : 26 (3) , 139-149
- 2) 女性・妊婦・小児・高齢者の HIV/AIDS 診療 南 留美、医学のあゆみ vol 284 (9) ,2023, p694-700
- 3) 急性ウイルス性肝炎 南 留美、内科2024 : 134 (1) : 72-76
2. 学会発表
- 1) Rumi Minami, Lijun Sun, Yu-Ting Tseng, Lin Cai, Ping Ma, Katsuji Teruya, Nao Taguchi, Paul McDwyer, Julie Ryu, Weiping Cai Travis Lim Twelve-Month Effectiveness and Safety of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-

- Experienced People With HIV : A Pooled Analysis From Observational Cohort Studies Across Asia Asia-Pacific AIDS & Co-Infections Conference (APACC) ; June 12-14, 2025; Tokyo, Japan
- 2) Hideta Nakamura, Rumi Minami, Michinori Shirano, Nanae Ikemiyagi, Takeshi Takaesu, Kazutaka Yamaniha, Wakako Arakaki, Kazuko Yamamoto. The prevalence and risk factors of frailty in Japanese people living with HIV. European AIDS Conference 2025 - 15-18 Oct, Paris
 - 3) Surveillance of HIV-1 transmitted drug resistance in Japan, 2020-2022. Tadashi Kikuchi¹, Hiroyuki Gatanaga, Mayumi Imahashi, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network, APACC 2024, 27-29 June, Taiwan
 - 4) Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice : 12-month results of the retrospective patients in the BICSTaR Japan study. Rumi Minami, Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Yoshiyuki Yokomaku, Tomoyuki Endo, Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Shinichi Oka, APACC 2023, 8-10 June, Singapore
 - 5) A cluster of phylogenetically close strains to the highly virulent variant of HIV-1 subtype B circulating in the Netherlands was detected in Japan. Machiko Otani, Mayumi Imahashi, Rumi Minami, Atsuko Hachiya, Masakazu Matsuda, Masako Nishizawa, Teiichiro Shiino, Tetsuro Matano, Yoshiyuki Yokomaku, Yasumasa Iwatani, Tadashi Kikuchi, Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. IAS 2023 Conference on HIV Science. July 23 - 26, 2023; Brisbane, Australia.
 - 6) Trends in prevalence of pretreatment drug-resistance in Japan : a comparison between the pre- and post- second-generation INSTI era. Tadashi Kikuchi, Mayumi Imahashi, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Shigeru Yoshida, Tsunefusa Hayashida, Lucky Ronald Runtuwene, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiura, on behalf of the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. INTERNATIONAL WORKSHOP ON HIV DRUG RESISTANCE AND TREATMENT STRATEGIES, 20 to 22 September 20-23, 2023, Cape Town, South Africa.
 - 7) Premature Agingと高齢化～臓器からみるPWHの課題と対策、南 留美 第39回日本エイズ学会学術集会・総会 共催シンポジウム2025年12月5日 熊本
 - 8) 治療歴のあるHIV感染者におけるビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビル アラフェナミド (B/F/TAF) の12ヵ月間の有効性と安全性：アジア各国の観察コホート研究からの統合解析、南 留美, Lijun Sun, Yu-Ting Tseng, Lin Cai, Ping Ma, 照屋 勝治, 田口 直, Travis Lim, Paul McDwyer, Julie Ryu, Weiping Cai 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
 - 9) 中高年People Living with HIV (PLWH) における運動習慣の重要性 南 留美、高濱 宗一郎、中嶋 恵理子、今井絵利華、小松 真梨子、犬丸 真司、長與 由紀子、城崎 真弓 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
 - 10) ゲイバーとハッテン場へのHIV郵送検査キット設置における有効性と問題点-梅毒同時検査での検討 高濱宗一郎、中嶋恵理子、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南留美 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
 - 11) 国内HIV-1伝播クラスター動向 (SPHNCS分析) 年報-2024年上半期 椎野禎一郎・今橋真弓・南留美・中村麻子・林田庸総・吉村和久・杉浦互・菊地正・薬剤耐性HIV調査ネットワーク 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
 - 12) 薬害HIV感染被害者に対するがん検診受検希望についてのアンケート調査 福田あかり、古

- 賀道子、田中貴大、保坂隆、石坂彩、野島正寛、柿沼章子、後藤智己、藤谷順子、伊藤俊広、今橋真弓、江口晋、遠藤知之、木内英、阪森亮太郎、高橋俊二、照屋勝治、丹生健一、橋本則久、花井十五、藤井輝久、南留美、茂呂寛、横幕能行、渡邊大、渡邊珠代、四柳宏 39 回日本エイズ学会学術集会・総会 2025 年 12 月 6 日
- 13) 2024 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向 菊地正、西澤雅子、林田庸総、渦永博之、豊嶋崇徳、吉田繁、伊藤俊広、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、椎野禎一郎、吉村和久、杉浦互、薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク 第 33 回日本抗ウイルス療法学会 2025 年 8 月 21 日～23 日、東京
- 19) ウイルス遺伝子配列によるわが国の HIV-1 国内伝播クラスター・サーベイランス 椎野禎一郎、菊地 正、今橋真弓、南留美、中村麻子、林田庸総、吉村和久、杉浦互、薬剤耐性 HIV 調査ネットワーク 第 84 回日本公衆衛生学会総会 2025 年 10 月 29 日～31 日、静岡
- 20) 血友病患者の骨密度低下に関する研究—多施設共同観察研究のデータより— 藤井輝久、山崎尚也、中十奈苗、土石川佳世、長尾梓、遠藤知之、武山雅博、鈴木伸明、南留美、日笠聡、上村悠、近澤悠志、大野久美子、木内英 第 47 回日本血栓止血学会学術集会 2025 年 6 月 27-29 日、名古屋
- 21) HIV 関連形質芽球性リンパ腫寛解期に発生した組織球肉腫 中嶋恵理子、今井絵利華、高濱宗一郎、高瀬謙、桃崎征也、南留美 第 87 回日本血液学会学術集会 2025 年 10 月 10～12 日、神戸
- 22) HIV とともに生きる時代へ～日進月歩の医療がもたらす変化 南留美 第 95 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第 73 回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会、2025 年 11 月 29 日 福岡
- 23) 日本における PrEP の実装：導入から普及まで、そしてこれから～PrEP 利用者の声と現場の実態 南留美 第 95 回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第 73 回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会、2025 年 11 月 29 日 福岡
- 24) HIV 関連形質芽球性リンパ腫寛解期に発生した組織球肉腫 井上慎太郎、中嶋恵理子、今井絵利華、高濱宗一郎、桃崎征也、南留美 第 351 回日本内科学会九州地方会 2025 年 11 月
- 14) 日本におけるカボテグラビル+リルピビリンのリアルワールド評価：有効性・安全性およびバイオマーカー動態に関する多施設共同研究 安達 英輔、南留美、白野倫徳、仲村秀太、福島一彰、今橋真弓、関谷綾子、村松崇、平井由児、吉野友祐、谷口俊文 39 回日本エイズ学会学術集会・総会 2025 年 12 月 6 日
- 15) HIV 感染者のワクチン接種状況に関する多施設アンケート研究 (Preliminary Report) 金澤晶雄、安達 英輔、今橋真弓、遠藤知之、南留美、福岡里沙、久保田早苗、福島真一、鈴木麻衣、池田麻穂子、森博威、横川博英、内藤俊夫 39 回日本エイズ学会学術集会・総会 2025 年 12 月 6 日
- 16) HIV 関連形質芽球性リンパ腫寛解中に発症した組織球肉腫 中嶋恵理子、今井絵利華、高濱宗一郎、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、桃崎征也、南留美 39 回日本エイズ学会学術集会・総会 2025 年 12 月 6 日
- 17) 北陸・南九州のハイリスク層を対象とした郵送検査による HIV 検査モデル構築と効果分析に関する研究 鄭瑞雄、生島嗣、岩橋恒太、本間隆之、南留美、彼谷裕康、渡邊珠代、森永浩次、今村顕史 39 回日本エイズ学会学術集会・総会 2025 年 12 月 6 日

- 30日 福岡
- 25) 日本におけるHIV感染症の最新動向と予防・治療・高齢化への包括的アプローチ 南 留美 第79回日本内科学会九州支部生涯教育講演会、2025年11月30日 福岡
- 26) 血友病Aの周術期管理にエファネソクトコグアルファを用いた3症例、中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、南留美、第86回日本血液学会学術集会、2024年10月11-13日、京都
- 27) HIV感染症の現状と感染対策、南 留美、第48回日本血液事業学会総会、2024年11月13日、福岡
- 28) HIV感染者に対するこれからのワクチン接種のあり方、南 留美、第94回日本感染症学会西日本地方会学術集会、2024年11月14日、神戸
- 29) 血友病Aの周術期管理にエファネソクトコグアルファを用いた4症例、中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、合原嘉寿、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 30) 久山町スコアを用いたPeople Living with HIV (PLWH) の動脈硬化性心血管疾患リスクの検討、南 留美、高濱宗一郎、中嶋恵理子、小松真梨子、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 31) 当院におけるHIV感染症患者の健康診断受診の現状、長与由紀子、城崎真弓、犬丸真司、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 32) ゲイバーおよびハッテン場へのHIV郵送検査キット設置における有効性と問題点、高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 33) 国内HIV-1伝播クラスター動向（SPHNCS分析）年報-2023年、椎野禎一郎、今橋真弓、南留美、中村麻子、林田庸総、吉村和久、菊地正、杉浦 互、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 34) HIV陽性者を初めて受け入れた施設で対応考慮された事例 - 患者さんを支える施設を拠点病院がどう支えるか、地域支援者と拠点病院の関係性を再確認する -、大里文誉、首藤美奈子、南 留美、長与由紀子、曾我真千恵、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 35) HIV陽性者の地域支援ネットワーク体制構築を目指した取り組み、首藤美奈子、田邊瑛美、大里文誉、南 留美、田村賢二、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 36) 長期療養支援について考える～新たな社会の構築を目指して～、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 37) 透析導入ゼロを目指して-PLWHの腎機能を考慮した個別化治療-、南 留美、第38回日本エイズ学会学術集会・総会、2024.11.28-30、東京
- 38) HIV感染症とPremature aging、HIV感染者のメタボリックリスクとART選択 南 留美、第37回日本エイズ学会総会 共催シンポジウム 2023年12月3-5日
- 39) 当院における非AIDS指標悪性腫瘍21例の後方視的検討 中嶋恵理子、高濱宗一郎、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、南 留美、山本政弘、第37回日本エイズ学会総会、2023年12月3-5日
- 40) 血液製剤院外処方への取り組みと薬薬連携による患者サポートの整備 松永真実、合原嘉寿、山口泰弘、藤瀬陽子、大橋那央、橋本雅司、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南 留美、第37回日本エイズ学会総会、2023年12月3-5日
- 41) カポテグラビル+リルピグリンの使用経験とPOMSによる精神神経系有害事象の評価 合原嘉寿、山口泰弘、松永真実、橋本雅司、木下理沙、曾我真千恵、中嶋恵理子、高濱宗一郎、南 留美、第37回日本エイズ学会総会、2023年12月3-5日
- 42) 福岡県内のSTI関連病院におけるアンケートの調査 高濱宗一郎、中嶋恵理子、山地由恵、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、南 留美、第37回日本エイズ学会総会、2023年12月3-5日
- 43) 国内HIV-1伝播クラスター動向（SPHNCS分析）年報-2022年 椎野禎一郎、大谷真智子、中村麻子、南 留美、今橋真弓、吉村和久、杉浦互、菊地正、第37回日本エイズ学会総会、2023年12月3-5日
- 44) ビルテグラビル・エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド（B/F/TAF）の日本人HIV

陽性者（PWH）に対する有効性と安全性：
BICSTaRJapan24ヵ月解析結果 照屋勝治、横
幕能行、渡邊大、遠藤知之、南 留美、田口直、
Rebecca Harrison, Andorea Marongiu, 白 阪 琢
磨、岡慎一，第37回日本エイズ学会総会，2023
年12月3-5日

- 45) HIV陽性者の受け入れ経験を有する事業所の
ネットワークを作る取り組み「福岡県 HIV サ
ポーター連携カンファレンス」実践報告 田邊
瑛美、南留美、首藤美奈子、大里文誉、新野
歩，第37回日本エイズ学会総会，2023年12月
3-5日
- 46) 終末期医療に移行したHIV陽性者へのソー
シャルワーク実践—家族へ病名未告知立った際
の療養支援— 大里文誉、首藤美奈子、南 留
美，第37回日本エイズ学会総会，2023年12月
3-5日
- 47) ドラビリンの長期使用に伴う影響調査 山口泰
弘、合原嘉寿、藤田清香、松永真実、藤瀬陽
子、大橋那央、橋本雅司、中嶋恵理子、高濱宗
一郎、南 留美，第37回日本エイズ学会総会，
2023年12月3-5日
- 48) 抗HIV薬変更に伴う赤血球数の変化について
南 留美、高濱宗一郎、中嶋恵理子、城崎真
弓、長與由紀子、犬丸真司、山地由恵、合原嘉
寿、小松真梨子、矢田亮子、山本政弘，第37回
日本エイズ学会総会，2023年12月3-5日
- 49) 2022年の国内新規診断未治療HIV感染者・
AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向 菊
地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷真智子、
Lucky Runtwene, 椎野禎一郎、豊嶋崇徳、伊
藤俊広、林田庸総、瀧永博之、岡 慎一、古賀
道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、近藤真
規子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川
整、中島英明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂
寛、渡邊珠代、蜂谷敦子、今橋真弓、松田昌
和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能
行、渡邊 大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝
久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下修
三、饒平名聖、仲村秀太、健山正男、藤田次
郎、吉村和久、杉浦 互，第37回日本エイズ学
会総会，2023年12月3-5日
- 50) HIV、エイズの基礎知識 ～医師の立場から
～」 南 留美、福岡県介護学会 2023.3.11、福
岡
- 51) HIV感染症における長期合併症～Aging を中

心に～ 南 留美、第93回日本感染症学会西日
本地方会学術集会、第71回日本化学療法学会
西日本支部総会 合同学会 2023年11月7日、
富山

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記事項なし